

「大分県中期行財政運営ビジョン」の取組結果と「大分県行財政高度化指針」のフォローアップについて

1. 「大分県中期行財政運営ビジョン」の取組結果について

○中期行財政運営ビジョンの取組結果として、学力の向上に手応えがあったことはありがたいと思うが、図書館で子どもたちが一人一人課題を持って調べ、その成果を発表するということにも力を入れないと、暗記でペーパーテストの点が少しぐらい上がっても、社会に出たら全く通用しない。

主に生徒指導に目を向けないといけないのが実情ではあると思うが、社会に出ても自己教育力を十分に持って、将来に渡って学ぶ力のある子どもを育てるために、県の教育センターで講座を持つなどの工夫により、まずは校長先生から研修するなど、司書教諭が働きやすい環境を作り、学校図書館の充実を図ってほしい。

○学校図書館の支援は望まれることだが、もう間もなく閉校という小学校では、学校図書館の先生はいないに等しいため、市立の図書館を利用することが多い。しかし、人事異動のサイクルが早く、図書館の事を全く知らない方が館長等に就任すると、それまで行われていたお話会や子どもに対するイベント等が急になくなったりする。そのため、わざわざ隣の市の図書館を利用するという状況が地方では起きているので、そういった状況があることを理解し、全ての図書館に、この分野の理解が深く、子どもと親との架け橋になってくれるような職員が勤務するよう、県からも指導してほしい。

○子育て満足度日本一について、医療費がかからなくなると満足度が高くなるという概念が住民の中にも支援する行政側にもあるが、医療費助成があり、経費負担が軽くなっても、いつも子どもが病気になっていては満足度は決して高くないと思う。小さい頃からの親の心構えや食育、育児環境整備によって、子どもが病気になりにくくなると思うので、子育て満足度日本一は、予防も重視すべきである。

○平成23年3月に策定した大分県新エネルギービジョンは、向こう27年までの数値目標や主要プロジェクトが網羅されているが、東日本大震災が起きて国の施策等もずいぶん変わってきた。県もエネルギー政策については、震災前と後では考え方を変えざるを得ないのではないか。

2. 高度化指針のフォローアップについて

○高度化指針のフォローアップについては、項目毎に取組内容の進捗を毎年度整理し

て、記載例のとおりに報告するということが、全ての項目について各年度毎に検討を着手するという事なのか、あるいは、4年間に渡ってそれぞれの項目のプライオリティーを考えながら進めるのかなど、スケジュール感をしっかり持って進めてほしい。

- 高度化指針のフォローアップでは、「25年度末に指定管理が満了する13施設についてのあり方を検討する」ことや「可能なものから順次、アウトソーシングを実施」など、かなり幅広い議論が必要だと思うものや時間がかかるものもあり、こういうものは早めの検討着手が必要ではないか。